第３回御前崎市学校再編検討委員会会議録

日時　令和４年１月 24 日（月）午前９時 30 分開会
場所　御前崎市役所　３階　301 会議室

１　開　会
２　教育長あいさつ
３　【テーマ】望ましい 通学時間・学区の考え方について
　・個人発表
　・グループワーク
４　閉　会

第３回御前崎市学校再編検討委員会　出席者及び欠席者

御前崎市学校再編検討委員 12 名
御前崎市教育委員会教育長　河原﨑　全
御前崎市教育委員会事務局
　教　育　部　長　長尾詔司
　教 育 総 務 課 長　髙田和幸
　学 校 教 育 課 長　鈴木秀和
　学校教育課指導主事　澤入基裕
　教 育 総 務 課 係 長　川村美穂
　教 育 総 務 課 係 長　坂本浩長

欠席者なし

１　開　会

○司会（教育総務課長　髙田和幸）　定刻より少し早いですが、皆様お集まりですので今から第３回御前崎市学校再編検討委員会を始めさせていただきます。最初に互礼を交わしたいと思いますので御起立をお願いします。お願いします。

［互いに礼］

○司会（教育総務課長　髙田和幸）　御着席ください。それでは、第３回の学校再編計画ということでございますが、第２回の会議録につきましては、皆様のお宅の方に郵送させていただきました。あの内容で、どこか発言の趣旨が違うよというようなことがあれば、今日までに御連絡していただきたいということでお話をさせていただきましたが、御連絡はありませんでしたので、あの形でホームページに掲載させていただきます。よろしくお願いいたします。それでは、最初に教育長から御挨拶をしていただきます。

２　教育長あいさつ

○教育長（河原﨑　全）　改めましておはようございます。週初めの早朝より皆様お集まりいただきましてありがとうございます。今日は第３回の検討委員会ということですが、１月ももう 24 日、今年になって３週間以上経ってしまいました。年末からなかなか寒い日が続いていたのですけれど、昨日お湿りがありまして今日も静かな日で、少し落ち着いてきたかなという感じがしています。少し寒さの方も緩むようなのですけれど、その一方で皆さん御存じのように、コロナの第６波が猛威を振るうようになってきました。静岡県の方も今週の半ばからまん防が発令されるように聞いていますけれども、当市の方も一旦落ち着いた状況でしたが、先週半ば頃から少しずつ増えてきました。心配される児童生徒のほうですけれども、小中学校で数人、パラパラですが出始めています。ただ、どこか１か所のクラスからクラスターのように出ることは現状無いものですから、そこのところは若干安心をしているのですけれど、ただ、第一小学校の方で１クラス、今日明日学級閉鎖をしているところがあります。たくさん出たわけではないですけれど、大事をとってということで、月火と学級閉鎖をしているクラスが１クラスあるということです。園の方はおかげさまで全ての園でまだ出ておりませんので、なるべくこのまま行ってくれればありがたいなと思っています。目に見えないことですし、どこからどうやって入ってくるか分からないものですから、市をあげて意識を高めて何とか少ない人数で収まればいいなと思っています。

今日の委員会は第３回ということで、内容は、通学時間・学区についてということです。通学時間というのはかなり身近な問題で、教育の内容というとなかなか分からないという市民の方も多いと思うのですけれど、通学の時間というものは目に見えてはっきり分かるものですから、気になさる方が多い内容かと思います。ただ、再編ということを考えた場合には、当然学校数が減れば遠くなる子が出るというのは必然なものですから、その辺りをどう折り合いをつけるのかというのが１つのポイントなのかなというふうに思います。当市の場合は面積的には他市と比べて広くありません。市の端から端まで車で移動しても１時間はかからない、数十分で済むところであり、もっと広い市はいくらでもあります。比較すればそういう状況ではありますが、実際に、歩いて通う子どもたち、自転車で通う子どもたちのことを思うと、そこのところは子どもたちの立場になって考えなければいけないと思いますし、それに対して市がフォローするという時にも、予算との兼ね合いの中でどう考えていくのかと

いうところも大きな課題になってくると思います。また皆様方、お住いの地域、地域の中での状況を考えながら今日も御意見をいただければありがたいなと思います。本日も限られた時間ですが、よろしくお願いいたします。

３　テーマ　望ましい 通学時間・学区の考え方について
・個人発表
・グループワーク

○司会（教育総務課長　髙田和幸）　ありがとうございました。それでは、この後は会議にうつりますので委員長の堀井先生にお任せしたいと思います。本日、追加で配付した資料について説明をさせていただきます。教育新聞と書かれたＡ３の１枚、１月 13 日の教育新聞にたまたま前回やりました 35 人学級がいいのか、何人学級がいいのかということの記事ありました。教員側の立場からの意見を反映した内容です。こういうものが載っていましたので、参考につけさせていただきました。また時間のある時に御覧いただければと思います。

それからもう一つ、金曜日の夕方に届いていたものなのですが、私今日の朝に見ました。牧之原市の学校再編計画がパブリックコメントを募集しますよということで出されました。そもそも牧之原市が学校再編計画をすることによって、学校組合御前崎中学校の中の地頭方小学校が再編計画の中に関わっています。それに伴って御前崎市も学校再編に着手しなければならないという要素もあり、この会が起きているということは前の時に御説明させていただきました。このパブリックコメントというのは、牧之原市教育委員会がこうしていきたいという案が出されています。この中で、地頭方小学校の児童は現在御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校に進学していますが、この再編により相良地域の義務教育学校に通うことを前提に御前崎市と協議を進めていきますということが明確に書かれております。それから再編の時期につきましては令和 12 年度、2030 年度までに牧之原市の相良小中学校と榛原小中学校の２校の義務教育学校を着実に開校すること、それから状況に応じて前倒しも検討していきますということが書いてありますので、2030 年には牧之原市はこの計画を実行するというようなことが書かれています。従いまして、御前崎市は先程言いました御前崎中学校については 2030 年までに方針を出して、子どもたちが通える状況をつくらなければいけないということがはっきりしてきました。前回お話したことと変わりませんが、一応皆様にも御報告をさせていただきたいと思います。これにつきましては、牧之原市のホームページを見ていただくと、計画の内容が載っていますし、計画を説明する動画もアップされていますので、もし興味があれば御覧いただきたいと思います。

それでは会議に移りますので、司会進行を堀井先生お願いします。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　改めましてよろしくお願いいたします。先程教育長からもお話がありましたが、今回まずは望ましい通学時間・学区の考え方について１人ずつ御意見をいただきまして、その後、意見の深堀りということで３グループに分かれてグループワークを行っていきたいと思います。ざっくばらんに、河原﨑教育長から感染の問題の話をされましたが、グループワークの時に少し気を付けてグループワークをしていただければと思います。ちなみに今日、空気清浄機をつけていただいたということで、近くにあるというだけでちょっとほっとしますけれど、気を付けてグループワークをしていただければと思います。まずお話をいただく前に、基本的なところなのですけれども、委員の皆様のお手元

の資料で文科省の手引きを見ていただければと思います。今日の通学時間、学区の考え方について結構話題になったのですけれど、文科省が関係者に諮って出したものがあります。15ページを御覧ください。通学距離による考え方というものがございます。国では公立小中学校の通学距離について、小学校では概ね４㎞以内、中学校では概ね６㎞以内という基準を公立小中学校の施設費の国庫負担対象となる学校統合の条件として定めていることから、通学条件を通学距離によって捉えることが一般的となっています。この答申が出るまでは、小学校は４㎞、中学校は６㎞というような基準はあったのですが、答申の中で現状を踏まえて話し合いがされて、実際には今、平成の大合併などもあって、校区がかなり広くなっていますよね。そういうことも踏まえていろいろ調査もしたみたいですけど、調査の結果も踏まえて、「以上のようなことを総合的に勘案した場合、適切な交通手段が確保でき、かつ遠距離通学や長時間通学によるデメリットを一定程度解消できる見通しが立つということを前提として」、ここでは通学時間という形になりますが、「通学時間について『おおむね１時間以内』」を一応の目安とした上で、各市町村において、地域の実情や児童生徒の実態に応じて１時間以上や１時間以内に設定することの適否も含めた判断を行うことが適当である」とあります。これが出たときに結構いろいろ話題になり新聞等にも書かれていました。１時間以内と書いてあるのだけれども、一方で地域の実情や児童生徒の実態に応じてとも書いてあるので、場合によってはもう少し長くてもいいという話です。先ほど河原﨑教育長がお話になったように、御前崎そのものは端から端まで１時間以内ということで、だいたいその１時間以内の中に入っていますので大きな問題にはならないかもしれません。まず、皆さんから御意見をいただく前に答申の内容を確認いただきたいということと、髙田課長から改めて、委員の方々は学区が違うと分かりにくいというのもあると思いますので、資料の６ページになるのですかね、髙田課長からまた指示があるかもしれませんけれども、御前崎の現状を、実際にバス通学が始まっているところもありますのでお話ししていただいた後で、委員の皆様から御意見をいただければと思います。ちなみに、最初に順番を決めておかないと、唐突に当てられたという言葉もありましたので、今日は前回と逆の順番で、名簿の中に載ってらっしゃる順番で、一番下の方から御意見をこの後いただければと思います。では、髙田課長、まずお話をお願いします。

○教育総務課長（髙田和幸）　それでは、今、お話がありましたように、幼稚園の保護者さんが多いものですから、地元ではないという方もいらっしゃいますので、資料の学区図と書いてあるところを開いていただいてよろしいでしょうか。今、御前崎市内には小学校が浜岡側に３校、御前崎側に２校、合わせて５校あります。それを色で塗ったものがこの資料になります。黄色の学区が浜岡北小学校、赤の学区が第一小学校、青い学区が浜岡東小学校、グレーの学区が白羽小学校で、オレンジが御前崎小学校となっています。御前崎中学校の学区は、先ほど申し上げましたように地頭方小学校の学区がありますので、白羽小学校区の上側にあるところを合わせて３小学校で１学区、それから、北小、東小、第一小で浜岡中学校の学区ということになっております。学区についてのイメージがちょっと分かったかなと思いますので、次に通学状況というタグが付いているページをご覧ください。今、御前崎市は、徒歩、自転車バスという通学手段がございます。小学校は徒歩とバス、中学校は徒歩、自転車、バスという形になります。幼稚園の場合は送り迎え、もしくはバスというのもありますが、小学校で一番遠い児童が 11 ページになりますが、北小の 4.1 ㎞、第一小の４㎞が１番遠いところから通っている子になります。小学生の歩く時間ですので、50 分くらいかかってい

ますよということになっています。この方が一番遠いということになりますが、これは徒歩の場合です。しかしながら、バスがありますので、距離的にはもっと遠くからバスに乗って通ってきている子も実はいるということで、御理解をいただきたいと思います。ここからバスで50分というと大分遠くまで行ってしまうので、そんなに遠くではないですけど、距離的には４㎞を超えて通っているお子さんもいますよということで御理解をいただきたいと思います。１番遠い子で１時間はかからないですけど50分程度はかかりますよというような状況でございます。スクールバスについては、北小と東小と浜岡中学、第一小については路線バスを利用して合戸地区の子どもが通っているという状況です。通学の状況は以上です。

この後発表していただくことになりますが、私個人的には、やっぱり通学の範囲というのは30分か40分くらいかなと思っています。大人でも１時間歩くというのはやっぱりつらいので、30分か40分くらいの範囲で歩く、もしくは自転車で通うにしてもやっぱり30分程度、バスも１時間目の前にバスに１時間も乗っているというのは少し長すぎるのかなと思いますので、そういう意味でもやはり30分程度かなというふうに考えていますが、たまたま金曜日に浜松市の公共マネジメント、学校の再編計画をやった人の話を聞いたのですが、向こうは山間部の龍山村、水窪町というところがあって、学校再編をやっているがどうしてもバスで１時間というところも出てきてしまうという話があるのですが、学校再編を進めるにあたってはやむを得ないという話をして進めているという話も伺いました。御前崎市は先ほども申し上げたように範囲が狭いものですから、そこまで考えることはないかというのが１つ、それから、御存知のように８地区、皆さんに代表で来ていただいていますが、８地区ありますよね。ということで、地区ごとに文化や伝統、そういうものが違っている部分があると思います。お祭りにしても何にしても。そういうものも考えると、やっぱり学区の範囲というのは、原則地区ごと、地区が分断されることのないような学区というのは必要かなというふうに感じます。朝比奈を上朝比奈と下朝比奈に分けて、こっちはこっちというような話がないように、やっぱり朝比奈地区というのは１つの学区の中に入っているべきだと考えますし、御前崎と浜岡も合併して20年近くたちますけれど、やっぱり御前崎側の伝統とか風習と、浜岡側の伝統とか風習とは少しやっぱりまだ違うのかなと思いますし、あえてそれを一緒にする必要があるのかなと思うと、やはり文化伝統を守る意味では旧町の御前崎と浜岡が別々であってもいいのかなと個人的には考えますので、学区については、私はこのように考えます。今、言ったようなことを発表していただければ、話としてはしやすいかなと思いますので、一応、参考までに私の意見として述べさせていただきました。お願いします。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　ありがとうございました。髙田課長の個人的な見解も踏まえてお話をいただきました。今、歩いている距離、バスを使っている、あるいは路線バスを使って通学している子どもたちの実態を踏まえてのお話しをいただきました。それでは、本当にざっくばらんにお考え、あるいは、髙田課長がそうは言っても私はこう思うというのがあればお願いします。それでは、御意見をお願いします。

○検討委員Ａ　４月から小学校に子どもが通うということで、先日、歩く練習をしてきたんですね。うちは学区の中で隅のほうの家で、歩くのにちょっと時間がかかるので、練習しようということで、練習してきて、今、６歳の子で歩いて30分ぐらいかかりました。荷物とかも無くて、手ぶらで歩いてそのくらいだったのですけれど、実際にランドセルを背負って、荷物を入れてといったら、荷物も重くなって、歩くのも遅くなるのかなと思いました。そう

すると 30 分以上、まあ 40 分くらいかかるのかなと思ったんですよね。自分も久々に学校まで歩いて、結構遠いなと感じて、この徒歩通学者のところを見るとほかの学校でもっと長い時間歩いている子もいるんだなと思ったのですが、自分が歩いた感じでは 30 分ぐらいが徒歩ではベストというか、そのぐらいがちょうどいいのかなというのは思いました。時間も、うちの地区で小学生が集団で登校するときの出発時間が 7 時前ぐらい、6 時 45 分とかそのくらいにみんな集まって行くので、時間的にももっと長いと、もっと朝早くに起きて出発しているのかなと思うと、時間的にも 30 分、そのぐらいがちょうどいいのかなと思いました。以上です。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　はい。ありがとうございました。では、次の委員さんお願いします。

○検討委員Ｂ　家は小学校から自分の地区では一番遠いくらいの距離なのですが、子どもも歩いてたぶん 20 分くらいで、距離的にも歩く時間もちょうどいいくらいだと思うのですが、小学校区で一番遠いところからだと 25 分から 30 分くらいかかっていると思います。７時前後ぐらいから歩き始めて、ちょうど通勤時間にもあたるので、大きい道を通るというとやっぱり小さい子たちだけだと危ないかなという感じがしていて、そこは小学校５年生、６年生のお兄ちゃんやお姉ちゃんがいてくれるので大丈夫だと思うのですけど、時間的にはやっぱり 30 分か 40 分ぐらいがベスト、自分の子どもが小学校から帰ってきて家に着いていないなというのも、目安になる時間がそれくらいなのかなと。１時間以上かかってしまうとやはり心配になってくるので、小学校の話しか今できないのですが、自分はそのような感じで思います。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　はい。ありがとうございます。時間だけではなくて、大きな道路も横断するのですね。

○検討委員Ｂ　そうですね。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　では、次の委員さんお願いします。

○検討委員Ｃ　私の小学校区では一部の地域の子どもたちが路線バスを利用して小学校へ通っています。やっぱり、その地域から歩くというのは少し遠いので、今の形はとてもいいと思います。家はバス通学区ではないので、来年入学する子どもと小学校まで歩いてみたのですけど、だいたい 30 分前後かかりました。今の集合時間がだいたい７時ぐらいなので、７時前ぐらいからみんな集まるような感じです。そんなに長くもないし、ちょうどいいという感じだと思います。あと、どうしても旧 150 号線沿いも歩くので、テーマの時間とはちょっと違った意味合いになってしまいますが、交通量が多いところを歩くので、そこだけ気を付けて通学してもらいたいなというのはありますけれど、時間と学区に関しては現状でいいと思います。以上です。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　では、次の委員さんお願いします。

○検討委員Ｄ　こういうテーマを書いてくださっていたので、ちょっといろいろ考えていたんですね。自分が子どものときのこととか、あと、実際子どもが小学生ですし、ほかの委員さんもおっしゃっていましたが、来年入学する子どももいるので、お正月に外に出るのもあれかなと思ったのですけど、どこかに出かけるよりは、じゃあ小学校に行ってみるかと言って、遊び半分で歩いて行ってみたのですね。私も同じ小学校に通っていたので、同じ距離を歩くのですけれども、じゃあ行ってみようということで行ったのですが、だいたい 30 分。私の感覚からすると、ずっと６年間通っていたものですから、別に普通じゃないかと思うし、さっき１時間かけてくる子もいるというのは、それは長い距離を歩くから大変じゃないか、かわいそうという考える意見もあるのかもしれませんけど、一概にそうとも言えないのかなというのがあって、長い距離を歩くというのは、それだけいろいろな経験を積めるし、私これだけ歩けるじゃん、僕これだけ歩けるじゃんという、人よりも長い距離を歩いて体力をつけるだとか、あとはちょっと道草をくって、こういう花が咲いているねとか、こういうものがあるねというのを見ながら行くとか、そういうことをしているときもありましたので、だから一概にそういうことは言えないのかなという一方でちょっと思ったのは、この頃の時代で、今、夏場とか小学校でも対応してもらっていますが、ヘルメットじゃなくて帽子でもいいよと変えてもらうとか、水筒を必ず持ってきましょうねとか、そういう温暖化の関係というのですかね、気温が上がってきて、それでやっぱりさっき言ったように１時間歩くというのは体力面とかそういうことではいいと思うのですけれども、さすがに 30 何℃ある中を１時間歩くのはかわいそうだと確かに思いました。ですから、そういう意味ではそこは検討に入れる部分ではあるのかなと思いましたね。あとは、御前崎市はそんなに聞かないですけど、たまにあるのがちょっと変な人が出たとか、安全面の部分です。やっぱり長い距離を歩くというのは、それだけリスクが上がってくると思いますので、そういったところのケアというのですかね、朝も帰りも、うちの父も今、サポート隊で朝、交差点や集合場所のところに立ってあいさつをしたり、いってらっしゃいというような声を毎日かけてくれているので、非常にありがたいのですけれど、そういうことをやってくださっている方もあるものですから、協力も必要かなと。長い距離になってくればなるほどですけどね。あるのかなと感じました。ですから、望ましいという意味でいうとなかなか難しいとは思うのですけれども、やっぱり今ある一定の距離ですね、例えば学校を中心地に置いて、円を書いて、どれぐらいの距離までだったら行けるよねというところでの選定は確かに必要だと思うのですけれども、その中でもいろいろな諸条件が絡まってくると思うんですよね。明らかにこういうところはがけ崩れが起きそうなところだから子どもたちだけで行かせるのは危ないよねとか。だったら、そういうところには大人たちを立たせて見守ってもらうようにしましょうとか、そういういろいろな条件、単純に距離と時間だけでは考えきれないというところがあるのではないかなと思いました。あと、学区の考え方でいうと、単純にさっき言ったような、地区の中にもっと小さい字（あざ）があるのですけど、昔だったらその中に更に班があって、その班でバラバラになって動いたりすることがあったのですが、今はその班も１つになって、地区全体での子どもの人数が５人とか６人とか大分減ってしまっているので、そういうところも出てくると思います。人数が多ければ、もし何かあったときに子ども達だけでも何か対応できたりということがあるかもしれませんけれども、やっぱり学区はなんとなく確かにそれぞれの地域性とかもあると思うので、くっつけないほうがいいかなというのもあるのですが、やっぱりあまりにも人数が少ないのであれば、やっぱり合併じゃないのですけれども、なるべくまとまって動くということにもメリットはあると思うので、その辺の考え方も必要かなというふ

うには思いました。だいたい私が浮かんでいたのはこのようなところです。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　ありがとうございます。猛暑も含めて安心安全との関り、通学班と学区との関りでしょうか。ありがとうございました。では、次の委員さんお願いします。

○検討委員Ｅ　自宅から小学校は近いので 10 分くらいで行けるのですが、一番遠いほうの人に聞くと、6 時 50 分くらいに出ていると言っていたので、40 分から 50 分ぐらい歩いているのだなということは聞いています。ずっと車の通りが激しい道を歩いているので、サポート隊が付いているのも仕事に行くときに何回も見ています。その辺りは安心しているので、歩いている距離というのは、自分が小学校や幼稚園のときのことを考えれば、私自身も歩いて幼稚園に行っていたので、そんなに気にするほどではないのかなと思っています。学区のまとめも、元々私は相良の出身なのですが、こちらにきて祭りの形とかも全然違うし、慣れないというのもあるので、あまり大きな地域でまとめるというのは嫌だなと感じるところではあります。人が少なくなってしまったらどうしようもないとは思いますが、できる限りは伝統とかそういうものは残していきたいと思っています。
○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　ありがとうございました。僕自身はこの地区のことを全然分からないのですが、うちの大学にも御前崎中学校出身と浜岡中学校出身の学生がいて、やはり雰囲気が違うという話をしているんですよね。地区の雰囲気ですね。そういう問題も考えなくてはいけないということですね。ありがとうございました。次の委員さんお願いします。

○検討委員Ｆ　自分の地区は子どもの頃からバス通学は結構普通の感じでした。バスがないときは歩いて帰ろうと言って、学校から歩いたこともあるのですが、そうすると１時間かかるので、そうするとバス通学が妥当かなという感じでした。30 分ぐらいがいいかなとやはり思います。社会人であってもそうなのですけれども、通勤に片道１時間、往復２時間かかってしまうと、ちょっと生活のウェイトとしては大きいかなと思うので、30 分、往復１時間くらいだったら、生活していてもそんなに通勤に時間を割いているというのはないと思うので、30 分くらいがやはりいいかなと思います。ちょっと習い事とかする子がいると、１日に２時間通学に時間を割いてしまって、御飯を食べて、習い事に行ってというとちょっと大変なので、そういうことを考えたらそのぐらいが妥当かなと思います。中学校は地区の端からも自転車で 15 分くらいだったので、自転車は問題ないと思います。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　バス通学を含めて 30 分ぐらいがいいということですか。

○検討委員Ｆ　そうですね。集合時間はほぼ一緒だったので、７時過ぎぐらいに家を出て、集合場所に７時 15 分ぐらいに着いて、25 分バスという感じでした。時間的にはかかりますけれど歩いている距離は短いので。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　個人的なことですけれども、東日本大震災が起こっ

た後に、２年連続で福島へ調査に行きました。バスの通学時間は当然長くなるのですけれども、その時に言われたのが、考え方をちょっと変えて、１時間以上かかってバス通学をしていたのですけれど、バスの中で学習をする時間を設けるのだと、捉え方はいろいろあるのだなとその調査で思いました。ここは 30 分以内で行けるところが多いと思いますのでね。では、次の委員さんお願いします。

○検討委員Ｇ　うちは小学校も中学校も徒歩で 15 分以内で行けるような場所で、すごくいいところだなと思っているのですけれども、それでもやっぱり帰りが１人だなと思うと、時間にかかわらず親としてはすごく心配で、そろそろ帰ってくる時間なのにおかしいと思うと、ずっと心配している状況です。登下校は複数名でできる状況をつくれること、あとは本当にサポート隊の方たちには感謝していますので、大人の目があるというのはすごく安心だなと思っています。時間というと難しいのですが、やっぱり皆さんが言ったみたいに 30 分くらいだと子どもたちの負担も少ないのかなと思います。もうちょっとバスをうまく使って、やっぱり１時間近く歩いている子たちの話を聞くと、楽しそうに行ったり帰ったりしているとはいいと思いますが、負担も大きいなというのは感じます。小学校も雨がすごいときなどは、近くの方たちに迷惑がかかるほど送迎する親の車で渋滞ができてしまったりします。やはりそういうことも考えると、もう少しバス通学の子が増えれば、１台で学校に来られると思うので、ちょっと徒歩の遠い子がいるのかなとは思っています。以上です。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　ありがとうございました。皆さんからざっくばらんな御意見、小学校まで行く練習をしてくださった方もいらっしゃって、大変参考になりました。個人的に僕も田舎育ちで、藤枝の山の中なものですから、道草を少し思い出しました。道草は良かったなと。でも、今は安全の問題もありますから、保護者の方は、そういうところも心配なのだと思いますよね。ありがとうございました。地区のこととか、校区のことも出てきました。では、次の委員さんお願いします。

○検討委員Ｈ　私の住んでいる地区には、下の平地と原地区とありますが、原地区はそれこそバス通学でないと通えない距離ですから、バスで通っているわけですね。小学校の場所も小高い山の中腹なものですから、毎日子どもはトレッキングをして学校に通っているような形だと思っています。通学状況についてということで、バス通学対象の原地区ではないけれど距離が遠いから１、２年生だけバス通学の地区もあるし、バス通学の人数が 47 人ということで、全校児童のうちかなりの人数がバスで通学しないと通えない距離、それから先ほど他の委員さんが言ってくれましたが、変質者が出ては困るよと。明るいうちはいいのだけれども、暗くなってきたときに家の方に迎えに来てもらわないともうどうにもならないところです。ますます人口は減っていくと思うのですけれども、どういう形で残していけばいいかというのは、もっと若い方に考えてもらったほうがいいと思います。子どもを甘やかすというのはあまり良くないとは思うのだけれども、さっき言っていたように、自分で歩いてみて、ここは気を付けようという場所を大人の目で見てみんなで共有できるようなことをやってほしいと思います。朝は見守っていてくれているけれども、夕方は意外といないのですよね。昼間は、いくら田舎でも、ほかの地域の人の車が結構通るから、危険箇所が結構あるわけですよ。事故は今のところないのですけれども、見ていて怖いというのはかなりあります。あ

と、集中豪雨とか、異常気象で雨の多いときは、川の横に通学路がありますので落ちたら死んでしまいます。そういうときの登下校時の対応もどうしたらいいのか分かりません。迎えに行って、ついでによその子も乗せて事故になったらという心配もありますので、そういう細かいところまで考えていただけるとありがたいと思います。ありがとうございました。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）
　今日も校長先生が参加くださっておりますけれども、学校でも安全対策をされていると思いますので何かあればまたお願いします。では、次の委員さんお願いします。

○検討委員Ｉ　私の地区も人数が少なくて、子どもの数が少なくてということで、参考になるか分かりませんが、我々が子どもの頃というと、小学校へもやっぱり 30 分くらいかけて、のんびり歩いていて、これが限度かなと思ったりもしました。でも考えてみれば、原のほうの人たちは更に山道を歩いたりしたことだから、結構な時間がかかったかなと思いますし、その地区の人たちが今の小学校まで通うためには、やはりスクールバスが必要なのかなという感じもします。中学校には自転車で通いましたけれども、片道４㎞くらいで 30 分くらい通ったし、当時はのんびりしていたので交通量なども違いますが、やはり時間的にみるとそのくらいなのかなと思います。今、健康を兼ねてウォーキングをやっていますが、１時間くらいがいいということでそのくらい歩いていますが、やはりかなり疲れます。子どもが毎日１時間歩くというのは相当な負担かなと現実に思いますので、やっぱり１時間以内という話もありますが、我慢や忍耐ということもありますが、個人的な意見としては 30 分くらいがいいのではないのかなと思います。それこそサポート隊のような人たちが、通学の時に子どもたちの後をついていったり、あとは角に立って子どもたちの通学の状況を見たりすることもありますけれども、本当に子どもたちが元気にグループで通学している姿を見ると集団登校がいいのかなと思いますが、自分が住んでいる地区はもうグループで通うにしても４人ですので、これ以上は距離的には大変なのかなと思います。以上でございます。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　校長先生も御意見いただいてもいいですか。お願いします。

○検討委員（校長代表）　個人的な意見は控えさせていただくので、学校の現状というか、そういうものをお伝えしたいと思います。先ほどもありましたが、現在、小学校で遠い子は４㎞かけて登校してくる子がいます。実際は、通学班で登校してくるので、集合場所がどの地区にもあります。集合時間はどの地区もおおよそ７時前後になっています。集合場所までが２㎞、そこから学校まで２㎞歩いてくる子も中にはいるというのが現状です。なので、集合時間は７時であっても、実際に家を出てくるのは６時台という子がもちろんいます。やはり６時台の集合時間というのは、小学生の子どもたちにとっては生活リズムを作っていくのが難しいところはあるかなというのは感じています。それから、だいたい 30％くらいの子がバスで通学してくるのですが、バス通学の場合もバス停で乗車する時間はだいたい７時前後です。30 分くらいバスに乗って、７時 30 分から 40 分くらいに学校に着いて、それから８時の始業に間に合うように準備するというのが生活のリズムになっています。実際にバス通学が増えると考えると、学校では日課にかなり影響があると思います。バスの時間が決まっていて、それに合わせて各学年の下校時間が決まってきます。本校でいいますと、帰りのバス

は１台になりますので、すべてのバス停を回るのに１時間くらいかかります。そうすると、半日日課をするにしても、授業が３時間しかできません。Ｂ３日課といいますが、３時間の日課で 11 時 30 分を下校にします。給食を食べないで下校して、家庭でのお昼の時間に間に合うようにするとすれば、この時間に下校させなければいけない。バス通学の子が増えると、そういう日課等に関しても学校では配慮が必要になってくるというのはすごく感じているところです。

あと、学区につきましては、ほかの校長にも話を聞きましたが、やはり学校の立場ですと、地域の方々にいろいろと協力をしていただいて、地域の方々が学校にも入って授業等でも助けていただいたくことも多いです。地域の方の学校への愛着であるとか、郷土愛は、どこの校長もすごく感じています。それぞれの地区の方々が、自分の卒業した学校にとても愛着をもたれていて、大切にしたいという思いを、校長たちはひしひしと感じていますので、やはり御前崎地区とか浜岡地区というような括りであるとか、従来からの地区の区切りみたいなものは、地域の方々の思いを尊重するなら、慎重に決めていかなければいけないと感じているところではあります。以上です。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　ありがとうございました。武井先生はどうされますか。今お話しされますか。最後にまとめてお話しされますか。

○検討委員（静岡大学教授　武井敦史）　後で発言させていただきます。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　後でまとめてお願いします。ありがとうございました。それぞれのお立場、それぞれの地区の関係で、ざっくばらんに大変参考になるお話をしていただきましてありがとうございました。この後、グループワークで少し深掘りをということですので、休憩の後にグループワークをお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○教育総務課長（髙田和幸）

それでは、また前回と同じようにグループごとに机を並べますので、少し時間をいただきたいと思います。それと、こんな時期ですので、少し寒いですが換気をさせていただきたいと思いますので御承知おきください。

［休憩　10 時 20 分再開］

［グループワーク］

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　30 分ちょっとたちましたので、お話合いになったことをまとめていただきたいと思います。

○事務局（教育総務課係長　坂本浩長）　時間ですので、発表の準備をお願いしたいと思います。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　では、Ｃグループで御意見出ていたことをお話しい

ただければと思います。

○Ｃグループ（教育総務課長　髙田和幸）　それでは、Ｃグループの意見を発表させてもらいます。まず、通学の時間帯というのは、１時間通うのだったら、保護者がそれなりに早く起きてという支度のことを考えると、やはり 30 分から 40 分ぐらいで、７時ぐらいに集合時間で集まって行けるという時間がベストではないかと。それが１時間で６時 30 分ぐらいに集まりますよとなると、保護者はいったい何時に起きればいいのかという話になりますので、そう考えたときにそのぐらいがやはりよいのではないかということと、子どもが１時間歩いて授業を受けますというのと、30 分歩いて授業を受けますというのは、やっぱりちょっと違うのではないかというところがあるので、そういった意味でも、子どもの目線から見ても 30 分から 40 分、保護者の目線から見てもそのぐらいではないかというのが、ここの考え方です。ただ１つ、集団登校という考え方が前提になっているので今の話になりましたが、保護者が仕事に行くときに乗せて行きますよという話がＯＫなら、こう言う問題は解決してしまうのかなと。遠くても。車で行けば５分、10 分で着いてしまう話なら、そういう方法も今後考えていって、学校に乗り降りできるロータリーとかが整備されれば、保護者の負担も減ってくるし、もう少し遠くてもいいのかなというのもあるのかなということを私のほうからさせていただきました。

　それから、学区の考えは、今、激論になっているのですけれど、例えば、浜岡北小学校が第一小学校と一緒になりますよといったときに、北小全体の中で地域を分けるのは良くない、朝比奈を半分に分けましょうとか、新野を半分に分けましょうという話はできないので、北小全体が一緒になりましょうという考え方と、北小の中の新野地区は第一小、朝比奈地区は浜岡東小学校という分け方とどっちという話をしていました。そのときに、元々は新野小学校と朝比奈小学校があって、それが一緒になったので、元の形に戻して、その単位で分けるのはいいのではないかという考え方と、昭和 50 年に合併した北小の伝統もあるものですから、北小としてどこかの小学校と一緒になるなら合併という形になりますのでそちらのほうがいいのではないか、分けるというと吸収というイメージになって良くないのではないかという考え方があって、ここについては結論が出ませんでした。ただ、新野、朝比奈、高松、池新田というような地区を分けるということは、やっぱりできないという話が出ました。Ｃグループはこのような意見かなと思います。以上です。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　はい、ありがとうございました。それでは、Ｂグループのお話のまとめをお願いします。

○Ｂグループ（教育総務課係長　坂本浩長）　はい。Ｂグループです。通学時間につきましては、個人発表の中でも各委員からありましたが、現状を踏まえて 30 分程度が妥当・一般的ではないかというのと、それを崩さなければならないほどの学区編成をしなければならない理由があるならば、父兄としてもそれを受け入れざるを得ないのかなという意見ではありました。その際に、現状として認識してもらいたいのですが、今子どもが減る現状の中で、隣の行政区と一緒に地域を広げた中から役員を出すというような調整をしていたりもするのですが、その中で、世代間の考え方の違いも影響し、今まで旧の地区の中から役員を出していたのだからお前たちもそれは一緒にするなという意見も出て、ＰＴＡ役員の枠組みすらなかなか変えられない現状もありますということでした。お父さん、お母さんとしては、子ども

が減るということは役員に当たる確率が上がるということなので、そういう住み分けをしたくても上の世代から意見が出る場合がある。それが学校再編ということになれば、もっと出てくることが予想されるねという話でした。

通学時間においては、１人の委員から、自分の経験を踏まえて、いくら遠くても新たに得るものもあるので、そこはそんなに 30 分にはこだわりませんというような意見が出たのも実情です。

それから、ちょっとこの議論とは離れますが、各個人の発表の中で出た通学路の安全性への心配については、私からは、市や警察等関係者を含めた協議会の中で、通学路の一斉安全点検等も行っていますということを伝えさせていただきました。親にとっては、際限がない問題ではあるけれども、やはり自分の子どもがいかに安全に通って、子どもが減れば１人で来る道すがらの距離も増えるので、校長先生のお話にもありましたけれども、集合場所まで１人で行く、ということは１人で帰るということなので、それへの不安はやっぱりどこまで行っても拭えませんという意見が出ました。

学区については現状を踏まえて、やはり数値的に受け入れざるを得ないときが来れば受け入れるようなことになると。そこでただお祭りの話等も出ましたけれども、地域というものがそこの中に現存していますので、そこは大切にして欲しいというのが意見です。以上です。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　ありがとうございました。こちらもテーマに設定のない話まで出てきたということで、そこまで話し合いをしてくれました。ありがとうございました。それでは、Ａグループ、まとめにくかったと思います。

○Ａグループ（学校教育課指導主事　澤入基裕）　Ａグループです。Ａグループのベストとしては、歩きも自転車もバスも 30 分以内というところがベストなところではないかなというのは出ました。ただ、その中でいろいろなことが出てきたのですが、例えば、歩く通学の危機管理的な視点で考えると、昔のほうが危険性というのはどうしても大きかったのだけれども、世の中の危険に対する敏感さというのが大きく変わってきているということも考えると、長くなればなるほどリスクというのはどうしても大きくなってくるのかなということはありました。ただ、歩く距離等についても、最適解というものもあるのかもしれませんが、どうしても児童生徒の個人差というところも出てくるということもあるのかな、そういうことを考えたときに学校が安全的配慮ということを求められるのですが、すべてのリスクを管理というのがなかなか難しい状況があって、今は見守り隊のボランティアさん等にサポートはしていただいているのですけれども、その方たちにも責任はないので、何かあった時にその方たちにも責任を負ってくださいというのはやっぱり難しい現状というものも実際にあるということで、なかなか難しさというか、考えなくてはいけないことがすごくたくさんあるなと思いました。登下校時の災害や暑さに対する心配であるとか、そういうのも中には入ってくるのかなというのがありました。

あと別で出たのは、今よりも登校時間が長くなってしまうとやっぱり苦しいというのは出てくるかなということや、荷物が重くなってきている現状、そういうことも考えなくてはいけないのかなと。ただ、荷物については、デジタル教科書が、一応、令和６年度ぐらいから入る見込みなので、もしかしたら今後ちょっと軽くなるのかなとか、そういうことも今後、社会の動きによっては影響が出てくるのかなとか、あとは、デジタル化が進んでいる中で、学校間でオンラインでの授業をやったりとか、そういったことも出てくると、距離というこ

との見直しであったりとか、日課を揃える必要性とか、バス通学のあたりへどう影響してくるかとか、その辺も今後検証していかなくてはいけないのではないかというような話題が出ました。以上です。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　ありがとうございました。それぞれの立場からいろいろな御意見をいただきました。30 分というのは、結構、統一して意見が出たなと思います。ちなみに、保護者の送迎について一方では、保護者の働き方というか状況によっては送迎できない親もいて、その辺の問題をどう捉えたらいいのかという御意見もあったと思います。ありがとうございました。

それでは、最後に武井先生から感想なり御意見をいただければと思います。

○検討委員（静岡大学教授　武井敦史）　みなさんどうもお疲れ様でした。私からは、本当に感想になってしまうのですけれども、何点か気がついたことについて、みなさんと共有させていただければと思います。

まず大前提として、この問題でどれが一番ベストかという、いわゆる正解を求めようとするのは、私は正しくないのではないかと思うのですね。というよりも、むしろ、みなさんにとってどういう状況に落とすのがより多くの人が納得しやすいかと、そういう問題だというふうに考えるべきだと私は思います。それで、最初にみなさんから意見、考えを出されるのを聞いていて、私は本当にどれもすごくまっとうな考え方だと思って聞いていました。例えば、歩く距離があんまり長くなりすぎると心配だし、安全への配慮がある。それも非常にもっともですね。それが、例えば、１時間を超えてくれば、これは明らかに長すぎるというところはあります。かといって、では短ければ短いほうがいいのか、学校が隣だったらいいのかといえば、それはやっぱり子どもが一定の時間体を動かして歩いてくるというのにはそれなりの意味がありますし、歩くことによって頭だって活性化されるということは分かっているわけですね。だから、少なければ少ないほどいいということでもない。大体 20 分から 40 分の間だろうなというあたりは出てきたけれども、本当にそれのどこがいいのかということは、これは多分、子どもによって違うはずです。だからその子が、あまり体が丈夫でなければ短いほうがいいかもしれないし、エネルギーがあり余っていればもう少し長く歩かせたほうがいいということは当然あり得ます。だから最適なことを考えようというのが難しいのですね。それと同じことが、バスの問題、それから見守り隊についてもあって、バスを出していけば安全だということはあるかもしれないけれども、検討委員Ｄさんが言われたように、歩いてくることによって、その間にコミュニケーションができたり、挨拶ができたりする良さというのもあるかもしれないですね。じゃあ、バスが良くないのかといえば、バスの中でいろいろ勉強することもできるわけだから、バスが一概に悪いとも言えない。見守り隊についても、見守り隊の負担が多くて、毎日のことで大変だという考え方もあれば、見守り隊で子どもたちとのコミュニケーションができて、自分で生活のリズムができるからそれも１つの良さがあるという考え方もあります。こういうことになった時に必要なものは、やはりある程度の寛容だと私は思っています。他の地域がこうやっているから、自分の地域もこうやらなくてはいけないとか、これが正解だからこうしようと考えるのではなくて、違うかもしれないけれど自分のところはこれでうまくいっているからそれでいいじゃないかと、そういうふうにみなさんが考えることが、全体にとって一番いい結論を導くのに必要なことなので

はないかと思います。だから、こうやって何を変えるわけでもないけれども、みなさんで話し合うということにはそれなりに意味があって、こうやって話を聞いている限り、劇的にひどい状況が起こっているわけではなくて、ただ、これから子どもが減っていく、環境が変わっていく中で、もしかしたらそれを変えてくるときがあるのかもしれないねということを一応共有しておく。それで例えば、子どもが減ってきてしまって、通学の時に１人ぼっちになってしまう子どもがいたら、そこのところには何か配慮を考えましょうと、そういうことをきめ細かく考えていくということで対応していくのが、当面のやり方としては一番賢いのではないかと思います。

一方で、これから少し考えておいたほうがいいと私が思ったのが、統廃合という問題が地頭方の問題だけではなく、もっと大きく出てくれば、そのときは当然公平性の問題というのも考えなくてはならないし、地域の一体感という問題も考えなくてはならないし、いろいろ考えなくてはならない問題はあるけれども、そこまでいかなくとも、これから学校が単独でカリキュラムをやるという考え方が少しずつ変わってくることになるだろうと思うのですね。例えば、オンラインを使って、いくつかの学校で、合同で講義を聞いておいて、それ以外の問題を解いたり練習をしたりということは個別の学校でやるということが、ごく当たり前のように入ってくるだろうと。そうなったときに必要なのは、学校の時間割の調整です。時間割があまりにもばらばらだと、これはちょっとそういうことがやりにくいということが出てきます。先ほど校長先生が言われたとおり、学校の時間割というのは、実は通学時間の問題と絡んでいて、あまり早すぎたり遅すぎたりすると子どもが帰るときに暗くなってしまうという問題が当然出てくるという可能性が冬場などはあります。そこの問題と絡んでいて一筋縄ではいかないかもしれないけれども、調整できるものはなんとか調整して、学校間でうまく時程を合わせていったらいいだろうと。こんなことを始めてみてもいいかもしれないです。それから、地域の中でもお互いのそれぞれ自治会ごとに全く分かれていたところでも、一部の活動はもしかしたら一緒にできるところが出てくるかもしれない。そういうところはぜひ積極的に動きを作っていくことが必要なのではないかというふうに思います。

今日、私のほうで感じたことを簡単にまとめると、正解は無いので、何が最適かということをその地域の事情に応じて考えてみましょう。考えたら、明らかにこちらのほうがみんなにとっていいよということは、できるだけ柔軟に変えていくというような地域であれば、これから少子化が進んでいっても、学校のあり方が変わっていっても、たぶん柔軟に対応していくことができるのではないかと思います。そのようなところを念頭に置いて、これからの議論をしていただけたらと思います。

私からの話はこのようなところにさせていただきたいと思います。以上です。

○委員長（常葉大学教授　堀井啓幸）　ありがとうございます。改めてみなさんから出てきた意見を、望ましい学校区のあり方の問題としてまとめていただいたので、みなさんにとって、子どもにとって、あるいは見守り隊の方々にとって、何が一番いいのかという視点を出し続けていくと、現状では大きく変えられそうにないのではないかということですよね。それで、更に個別学校論から地域学校論みたいな視点も必要なのではないかということですね。ありがとうございました。

そろそろ時間になりましたけど、次回の予定などについて、事務局から連絡をお願いしたいと思います。

○事務局（教育総務課長　髙田和幸）　次回ですが、３月７日を計画しております。みなさん御予定をよろしくお願いしたいと思います。時間は、今日と同じ時間でお願いします。３月７日、月曜日でございます。それから、次回のテーマですが、やり方は今回と同じようなやり方で行きたいと思います。次回のテーマは、学校施設として必要な機能といいますか、今、もうＩＣＴとか入ってやっていますし、ただ、これからもっと地域との付き合いを活性化していくには、地域のみなさんが入ってくるスペースがあったほうがいいのではないかとか、コミュニティスクールみたいなものもやっていますが、そういったもののスペースが必要ではないかとか、または先ほども言いましたが、お父さん、お母さんが送り迎えで安全に子どもを降ろすためには学校内にロータリーがあるほうがいいとか、どのようなものでもかまわないので、これから学校を作るのにこういうものがあったら便利だよねというようなものを１つ提案していただけたらというのが１つと、第２回のときに、クラスの人数についてということをやりまして、だいたい 30 人から 35 人ぐらいがいいのではないかという話が出ていましたが、逆にこれだけ少なくなってくるとちょっとまずいのではないかということもやればよかったということが後になって分かりましたので、例えば１クラスが５人になっても１クラスとしてやってくほうがいいのか、いやもう５人だったら他の学校と合併して 35 人とかになるほうがいいというのがあるのか、最低の人員というのですか、１クラス５人で次の学年も１クラス５人とかだと複式学級といって、２年生と３年生を一緒の学級にするようなことをやるのですが、そうなる前に合併や統合をしたほうがいいというようなことがあるなら、そのあたりのこともちょっと聞きたいと思います。５人になってからでは当然遅いので、その前の時点で 10 人ぐらいがやっぱり限度ではないかとか、そういうことがあればその辺の意見もみなさんに聞いてきていただけるとありがたいので、次回については１クラスの最低人数でこれだけはほしいという人数と、学校にこんな機能があったらいい、これからはこんなものが必要ではないかというものがありましたら、その辺をお伺いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

４　閉　　会

○事務局（教育総務課長　髙田和幸）　それでは、最後時間をちょうだいしてすみませんでした。途中、寒いのもあったと思いますが、これで、今回の第３回検討委員会を終了します。最後に互礼を交わしますので、御起立ください。礼。ありがとうございました。